

水ときらめき紀の川館の来館者数増への 取り組みについて

松下 栄一¹・吉川 季和²

¹近畿地方整備局 大和川河川事務所 工務課 (〒583-0001大阪府藤井寺市川北3-8-33)

²近畿地方整備局 和歌山河川国道事務所 流水調整課 (〒640-8227 和歌山市西汀丁16番)

水ときらめき紀の川館は、開館当時は積極的な広告やイベントを行った事で、多くの来館者がありました。しかし、近年の情勢変化により、来館者数の減少が目立っていました。

水ときらめき紀の川館にもっと多くの人に来てもらい、紀の川の治水・利水を知ってもらうため、職員自らの工夫と知恵、行動によって来館者数が前年と比較し35%増えました。今回は我々の行った来館者数増への取り組みの中間報告を行います。

キーワード 展示物の充実 触れる・考える ホームページ 地域へのPR行動

1. はじめに

水ときらめき紀の川館は平成15年に紀の川大堰建設と共に紀の川における治水・利水の効果などを多くの方に知ってもらうため建設された施設です。



「水ときらめき紀の川館」正面

開館当時は、「新しい展示館ができた。水族館のような魚道観察室がある。」と地元を中心に評判になり、多くの来館者がありました。また、旅行雑誌に広告を載せたり、土木の日の行事とからめ、河川や道路の維持管理用機械の展示、操作など体験をするイベントを行うことで、より多くの方に来館していただきました。

しかし、近年の情勢により経費の支出が厳しく制限され、広告の取り止めや展示物の更新・増設の見送り、受付・案内業務の廃止などもあり、水ときらめき紀の川館の存在も薄れ、来館者の減少が続く状態でした。

平成23年からは、開館は行っているものの無人となっていることから、施設管理のために入口の鍵を閉めたままにし館内も消灯していました。

来館者は玄関にあるインターホンで職員を呼び出し、解錠後に見学するのですが、普段は入口を施錠し館内は消灯しているために、閉館と勘違いをし帰ってしまう方もおられました。

そこで、私たちは経費をかけずに来館者を増やすために何ができるか、来館いただいた方に確実に館内に入っていただくにはどうすればよいか、リピーターを増やすにはどうすればよいかを考え実行した結果、平成25年度の来館者が平成24年度と比較し35%増えました。

特に地域へのPR行動直後の5月～7月の3ヶ月は、平成24年の1038人から平成25年の1966人と約90%増えています。

2. 展示物の充実

(1) 開館していることをわかりやすく

一昨年までは、受付・案内業務が廃止になったことに伴い無人となり、節電の観点からも全ての電灯を消灯していました。ある日、来館者が入口まで来て、中をのぞき込むものの帰りかけたため、たまたま近くを通った職員が声をかけることで見学はしていただきましたが、来館者は暗く誰もいないため閉館中であると思ったようです。そのことから節電は意識しつつ水ときらめき紀の川館の入り口だけは点灯することで開館中であることをわかりやすくしました。



開館している管内の様子

(2) 館内案内図の表示

受付・案内業務を廃止する前は、来館者に随同行説明を行っていたので、館内の案内図は不要だったかもしれません。しかし、受付・案内業務が廃止になってからは、来館者に対し職員の随行が必ず出来るという状況ではないために、自由に見学していただいていた。

来館者の見学している様子では、どれを見ればよいのか、ほかにどういう展示物があるのかなどが解りにくく、見学ルート案内もない中で、自分で展示施設の説明文を読みながら見学することとなり、来館していただいても1階の展示物だけを観て、すぐに帰ってしまう状況でした。

そこで、どこにどういうものが展示されているのかが一目でわかる館内の案内図を作成しました。案内図は非常勤職員が館内の展示状況を丹念に読みとり作成しました。

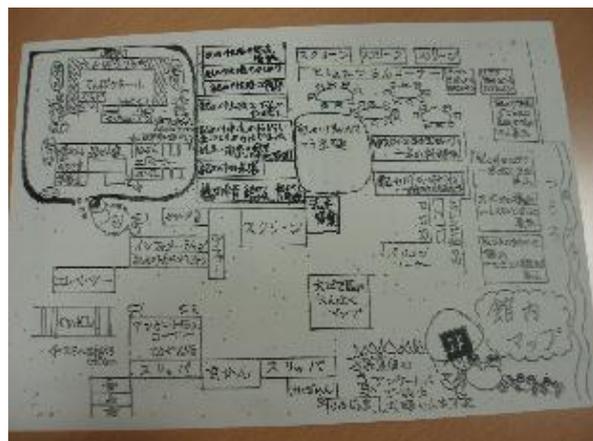


入り口扉の案内図

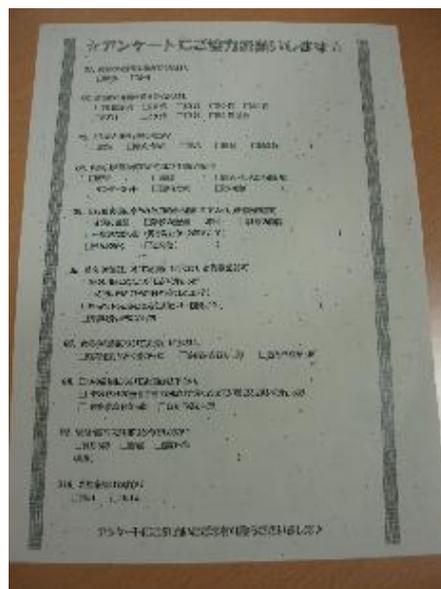
案内図は玄関入口扉にA3サイズを2枚利用して大きく明示すると共に、来館者が持ち歩けるように

A4サイズで作成しました。また、案内図の裏面にはアンケート用紙として来館者に意見要望等を記載していただき、来館者が再度来館していただけるきっかけを見つけるようにしました。

アンケートは、紀の川大堰と水ときらめき紀の川館を知ったきっかけや目的、見学施設に対する評価などであり、リピーター獲得のヒントを得るようになっています。アンケート結果については、今年度分析します。



アンケート付き案内図(表)



アンケート付き案内図(裏)

(3) 館内見学順路の表示

館内は自由に見ていただけますが、館内を見やすくまた、分かり易くするために、案内図だけでなく管内に見学順路を表示しました。



案内通路

(4) 館内既設展示物の位置情報の工夫

館内には展示物がいろいろありますが、和歌山市の観光情報パネルについて、和歌山市域地図に観光名所はあるものの、観光施設の写真は地図の下にあり地図と写真との一致が解りにくい状況でした。そのため、観光名所の位置と写真に同じ番号を表示することで、観光施設がどこにあるのか、どういう観光施設なのかが一目瞭然となりました。



和歌山市域マップの写真

次にメインホール床面には航空写真があり、紀の川の流域が解るようになっています。以前は紀の川大堰や大滝ダム、大迫ダムなど国土交通省や農林水産省の主要ダム、井堰のみ名称表示されていました。しかし、地域や沿川住民の方々にもっと親しみをもって注目していただくために、各地のランドマークや来館していただく小学校の名称を航空写真に貼り付けました。

大人の方は自分の家や会社とランドマークの位置関係や住んでいる近くの川との位置関係など興味を持って航空写真を見入るようになりました。

小学生の方は先生と一緒に、学校を目印に

自分の家を一生懸命探したり、今自分がいる水ときらめき紀の川館と小学校の位置関係を熱心に見ていました。



航空写真 学校名を表示

(5) 館内に紀の川大堰各施設の機能説明ポスターの表示

紀の川大堰には主ゲート設備や魚道など通常見えるものと発動発電機室や機械室内部など通常では見られないものがあります。それらを写真付きで説明する案内板を手書きで作りました。

来館者には、大堰には色々な施設があるということを理解していただいたと思います。



設備の案内表

(6) アユの遡上写真と魚の遡上時期の明示

水ときらめき紀の川館に来館いただいた方の中にはアユの遡上や魚の泳ぐ姿を見たい方も多くいます。そのためにアユがいつ頃紀の川を昇るのか、アユ以外にどういう魚がいるのかを手書きで明示するようにしました。

明示箇所はきらめき館入り口正面横と魚道観察室の各窓に明示しました。



遡上時期の説明

(7) きらめきクイズの作成

小学生の子供たちに紀の川を知ってもらう方法として、遊び心を兼ねたクイズを作成しました。問題と正解はA3版に絵を手書きして作成しました。それにラミネートを施し2枚重ね、ひもで結ぶ事で問題のラミネート用紙を自分でめくると正解が見えるようにしました。

これにより、答えを自分でめくすることで、遊び心をくすぐり興味を示していると考えています。子供たちは友達と共に競い合うようにクイズに挑戦してくれています。

クイズは館内をほぼ半周するように15枚作成しました。



クイズ



クイズを楽しんでいる子供達

(8) 館内展示物に修繕工事で不要となった部品の展示

紀の川大堰では堰機能の維持管理のため定期的に設備の点検や修繕工事を行っています。遠くからは小さく見えても近くで見るとすごく大きいものもあります。

大堰の設備を手にとりて知ってもらうために、修繕工事で発生した部品の一部をきらめき館に展示し体感してもらうようにしました。展示物としては、ゲート設備の水密ゴムを取り替えたときに実際にゲートに付いていたものを展示しました。来館者は普段では触ることが出来ない大堰の施設を手でさわるなどして、施設の大きさに感動していました。



流量調節ゲート設備の水密ゴムの展示

(9) 流出木の展示

紀の川では出水時には沢山ものが流れてきます。紀の川でも平成24年の台風12号時の出水で色々なものが流れてきましたが、出水が治まった後に紀の川大堰の上流500mに木の一部分が水面より出ていることが確認されました。その木は大きいように感じたため、万が一紀の川大堰のゲートに引っかかると、確実なゲート操作が不可能となり、堰管理上大きな問題となることから引き上げました。

引き上げてみると、高さが約7m幹周り12m、樹齢350年、生育時期が西暦650年ころの木であることが判明しました。その木はテレビや新聞記事に取り上げられ、多くの方から問い合わせがありました。

その木の一部分を展示することで、新たな来館者が増えています。展示に際しては、全景写真と共に手で触れられるように館内の床に置いています。

なお、木の本体は和歌山県さまの強い要望により県の施設である紀伊風土紀の丘に展示されています。



展示状況



巨大流木の写真

(10) イベントの開催

簡単にできるイベントとして「七夕イベント」を実施しています。材料としては河川に生えている笹とコピー用紙を短冊状に切り糸を通します。あとはペンと机を用意します。それらを水ときらめき紀の川館の玄関に置くとイベント完成となります。

周知方法としては事務所のホームページに登載し玄関にも掲示するようにしています。



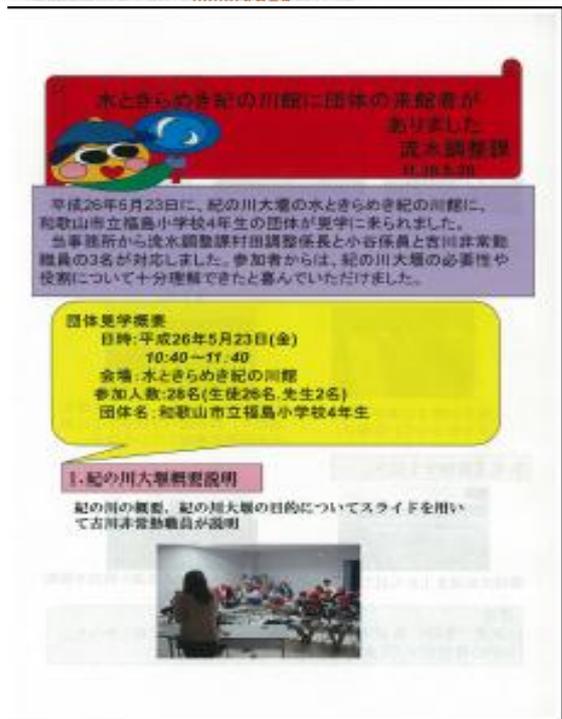
七夕に願い事を吊している小学生

2. ホームページの活用

(1)事務所ホームページの活用

事務所ホームページには水ときらめき紀の川館のページがありますが、長期間更新されていませんでした。そのため同じ人が改めてホームページを見られても全く変化がないためにホームページを見なくなる→再度の訪問はしない、という事象が起きていると判断しました。

そこで、来館いただいた団体の方にお断りを入れ、来館時の様子をホームページに公開しました。そうすることで、それを見た学校関係者をはじめとした団体の責任者や子供たちが、来館いただくことを期待しています。



HP掲載報告書

(2)旅行会社のウェブ版に登載

旅行会社では、観光施設の情報をインターネットで配信しています。中には無料で登載出来るものもあり、水ときらめき紀の川館でも無料で2件登載していただいています。



HPの抜粋

3. 来館者増に向けた地域へのPR行動

(1) 和歌山市教育長に来館要請

水ときらめき紀の川館の展示内容以外に団体で来館いただいた方にはパワーポイントで紀の川に関する事を説明しています。

小学生向けと大人向けがあり、小学生には水がどれほど大切かと言うことを学んでいただけるようにしています。

小学校の来館者には4年生が多いことから、引率の先生に確認したところ、4年生で水の学習をしていることがわかりました。そこで、学習施設の一つとして水ときらめき紀の川館を利用させていただこうと、和歌山市教育委員会に学習施設として来館頂くようお願いをしました。

事務所の要請には、和歌山市の教育長と学校教育課長に対応していただきました。水ときらめき紀の川館の教育施設としての利用を願うと、すぐに後日開かれる和歌山市内の小学校校長会の資料として配付および説明することを約束していただきました。後日資料の必要部数を教育委員会にお渡しし、資料として配布いただいています。

また、紀の川大堰の近くに所在する小学校10校へ赴き、教育施設の一つとして水ときらめき紀の川館に来館いただくよう要請も行いました。

そういう行動を行った結果、平成25年度は16校と平成24年の8校の2倍の学校に来ていただいています。

(2)和歌山市の観光施設として位置づけ

和歌山市では毎年市主催の施設見学バスツアーを実施していますが、そのコースとして紀の川大堰、水ときらめき紀の川館が入りました。入り始めた時期は教育委員会に要請に行った後のことであり、要請の効果が現れたものと判断しています。



「市報わかやま」表紙



募集要項 コース

4. 今後のとりくみについて

昨年は、お金が無くても「展示物に変化をもたらせたい。PRをもっと行う。それが来館者数の増につながる」という思いで行動し一定の成果がありました。今後は和歌山市域以外の学校にも来ていただくため、和歌山県教育委員会に説明に行くことや、成人の来館を増やすため観光案内所など公的施設へ説明に行くなど様々な行動を起こしていきたいと思っています。また、アンケートの結果を踏まえ、リピーターを増やすには何をすればよいかを考え行動していきます。